



行事予定表		
15	金	交通安全教室(5歳児)
19	火	巡回相談
20	水	おべんとうデー/尿回収日
22	金	不審者対応訓練
26	火	リトミック(3歳児以上)
28	木	誕生会
29	金	避難訓練

行きたいところへも行けず
会いたい人にも会えず
恐怖と不安と閉塞感
一日一日が、あっという間に過ぎていく。
所在不在のまま、近くの公園に行くといつものは、子ども達の姿がないのに大勢の子どもが遊んでいた。
学校と塾から解放され
本来の子ども姿に戻ったか？
新緑がやさしく輝き、
花みずきが薄く色をつけ
つつじが咲き始めている。
緑を帯びた芝生の中に、
タンポポが、踏まれてもたくましく、
張り付くように群生している。
もう少しだ、耐えしのこつ。
野草のようにたくましく、
人は、どんな困難にも
希望を抱き、連帯し、乗り越えてきた。



登園自粛へのご協力ありがとうございます。
・登園を自粛して頂いているご家庭やお仕事の命をどう守ろうかと皆さんお考えだと思えます。保育園は子ども達の人数も半分以下でまるで別の保育園の様です。園内の行事も中止ばかりですが、ツバメは例年通りやってきました。今、一生懸命巣作りに励んでいて、もう少しすると可愛い雛のさえずる声が聞こえることでしょう。
一日でも早く、子ども達の笑い声の溢れる保育園に戻ることを願うばかりです。

今月の予定の中から：
※社会状況によつては行事や内容の変更が生じることをご理解ください。
●交通安全教室 15日 13時半
・今月も5歳児ぞうグルーブのみの参加で「右と左を覚えよう」がねらいです。子ども達の中には右左の分からない子もいてご家庭でも右左を意識してみてくださいね
●巡回相談 19日
・牛久市より経験豊富な専門家 家庭相談員が年5回程度保育園を訪問します。保護者の方でお子さんの育ちの中で気になること等があれば相談もできます。
●おべんとうデー 20日
・子ども達の大好きなおべんとう！毎日お忙しいとは思いますが、子ども達の笑顔を思い浮かべながらのお弁当作りを宜しくお願いします。
●不審者対応訓練 22日
・もしもの時に備え訓練を行います。子ども達と職員とで、子ども達を守る為はどう動くのかをシミュレーションします。
●リトミック 26日
・今年度初めてのリトミックです。中島先生のご指導を受けながら、音やリズムを身体

表現することを日々楽しんでいきます。
●尿検査シート配布 18日 回収日 20日
・尿検査は、お子さんの健康管理にとつて大切なものです。必ず20日の朝ご家庭で尿の採取をお願いします。詳細は後日配布される「保健だより」を確認してください。
●誕生会 28日
・4月と5月生まれの子の誕生会を行う予定ですが、社会状況により中止になる場合もあります。
★お知らせ
・総会資料は連休明けに配布します。
・カレーの日の野外調理は今の所中止です。実施する時にはお知らせします。

「春」よらい
自粛、不要不急、三密の言葉が繰り返され、コロナウイルスの恐怖に押しつぶされそうな気分の毎日。それでも、園に行くと子ども達が、一斉に「園長先生、オハヨウ！」と駆けて来て、次々に飛びついてきます。子ども達は、元気に楽しそうに遊んでいます。仲の良い子が休園していると、少し寂しそうで、活気がないようでした。おまけに、今年も暖冬だったのに、4月は雨と強風の日が多く、急に寒くなる日もありました。なんとなく心も冷たくなりました。▼休日に近くを散歩していると、いつもは雑草としか見ていなかった草の中に、名も知らぬ沢山の小さな野の花が咲いていることに気づきました。そこで、ある晴れた日に、「春を見つけに行こう！」と、子ども達を誘いました。途中、アメンボをアミですくったり、虫を採ったりしながら、枝もたわわに、あでやかに咲き誇る八重桜をくぐり抜けると、広い野原に出ました。



よく見るといろんな種類の小さな野の花が、驚くほどありました。子ども達の中に、小さな植物博士がいて、たくさんの花の名前を知っていることにも驚きました。「これはヤハズエンドウというの、カラスエンドウとも言うの、昔はたべていたんだって。」タンポポが群生しているところでは「これはセイヨウタンポポと言つて外来種なの、日本のタンポポは少なくなつての。」彼の解説を聞いて、子ども達はすぐに覚えて「あっ、ホトケノザだ。」「ヒメオドリコソウだ。」と花の名を一致させていました。アカツメグサ、シロツメグサ、そしてシロツメグサがクロバー。「ペンペン草がナツナ」その他、もつとたくさん種類がありました。子ども達はすぐに覚えますが、私は何が何やら一致せず、覚えるのを諦めました。
▼野原にヒザをつき、図鑑を見ながら、一つ一つ花を見ていると、今まで雑草とひとからげにしてきた野の花が、みんな小さくてかわいらしくなってきました。いつも「雑草め！」と引き抜き捨てられていたのに、可憐な小さな青い花が、オオイヌフグリなどと名付けられ、可哀そうに・・・。帰り路、子ども達が競って私と手をつなごうとします。私が走ると子ども達も私に負けまいと走ります。私を追い抜いた子ども達と、青空を見上げ「幸せだなー」と思いました(どこかで聞いたことのあるセリフみたい)。希望という野の花が、心の中に咲きました。今は、誰もが辛い時です。しかし、どんなに辛い時でも、春は必ずやってきて、広い野原に人知れず小さな野の花が咲きます。

理事長 浅田精利

